

台風による早期落葉がかき樹に及ぼす影響と翌年の結実確保対策							
<p>【要約】 台風により9月下旬に早期落葉したかき樹は、当年度の果実品質が低下し、発芽期に花芽や花蕾が退化し減少する。落葉直後の摘果処理で果実肥大の低下と翌年の花芽や発芽後の花蕾の退化を抑制できる。</p>							
園芸研究所・果樹部・落葉果樹研究室						連絡先	092-922-4111
部会名	園 芸	専門	栽 培	対象	果樹類	分類	普及

【背景・ねらい】

平成3年9月27日に福岡県を縦断した大型台風19号が、県内のかき産地に及ぼした落葉、落果、倒伏等の被害は甚大である。しかし、収穫前の早期落葉が果実品質、花芽分化、翌年度の結実等に及ぼす影響は不明である。そこで、早期落葉樹の果実品質、花芽分化を調査し、併せて落葉直後の摘果処理の効果を明らかにして台風被害樹の事後対策技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

- ①9月27日に、台風により早期落葉したかき樹（富有）の当年度果実の品質は落葉程度が強いほど低下するが、果実肥大には落葉程度の影響は少ない（データ略）。1樹の90%が落葉した樹は落葉直後に摘果処理をすると、当年度の果実肥大が良くなる（表1）。
- ②早期落葉樹に落葉直後の摘果処理を行うと、休眠期に花芽分化数はわずかに増加する。しかし、全摘果樹は発芽時点で退化する花蕾が多くなり花蕾が減少する（表2）。
- ③次年度の結果母枝当たり着蕾数及び着果数は、落葉直後の摘果程度が強い樹で多くなるが、全摘果樹は栄養生長が旺盛となり過ぎて生理落果率が高くなる（表3）。

【成果の活用面・留意点】

- ①9月下旬以降の収穫前早期落葉樹の事後対策に活用できる。
- ②9月下旬以降の早期落葉樹の摘果は、当年度の生産には効果が少ないが、翌年の花芽確保、樹勢回復のためには有効であり、50%以上落葉した樹は2～3割の摘果を行う。
- ③発芽時点での花芽（花蕾）の退化は発芽期の土壌の乾燥によっても助長されるので、発芽期前後に降水量が少ない場合は灌水を徹底する。

[具体的データ]

表1 台風による早期落葉樹の摘果処理と果実品質 (平成3年)

収穫日	処理区	果重	着色		硬度		糖度
			果頂	赤道	果頂	赤道	
11.11	1/2 摘果	249 ^g	5.8	5.9	10.1 ^{kg}	9.5 ^{kg}	14.0 [%]
	1/4 摘果	228	5.6	5.8	9.5	9.5	13.8
11.21	1/2 摘果	224	6.3	6.0	10.7	10.2	14.8
	1/4 摘果	215	6.0	5.8	11.1	11.5	15.0

注) ① 調査園: 吉井町、供試品種: 25年生富有、落葉率: 90%
 ② 摘果処理: 平成3年10月9日、摘果数には台風による落果 (25%程度) を含む
 ③ 着色はカラーチャート、硬度はマグネシウム型硬度計で測定

表2 台風による早期落葉樹の摘果と結果母枝当たり花芽 (蕾)

処理区	10月11日		1月7日		5月1日	
	母枝長	花芽数	母枝長	花芽数	母枝長	花蕾数
全摘果	30.9 ^{cm}	27.0 ^個	31.4 ^{cm}	32.3 ^個	31.0 ^{cm}	11.0 ^個
1/2 摘果	30.3	30.5	32.3	32.5	30.1	13.1
1/4 摘果	31.0	31.5	31.7	27.4	31.0	12.1

注) ① 調査園: 吉井町、供試品種: 25年生富有、落葉率: 90%
 ② 摘果処理: 平成3年10月9日、摘果数には台風による落果 (25%程度) を含む

表3 台風による早期落葉樹の摘果処理と着蕾及び結果状況 (平成4年)

処理区	1樹当たり母枝数	摘蕾前		生理落果後		落果率
		1樹当たり着蕾数	1母枝当たり着蕾数	1樹当たり着果数	1母枝当たり着果数	
全摘果	474 ^本	2,780 ^蕾	5.8 ^蕾	845 ^果	1.8 ^果	27.1 [%]
1/2 摘果	579	3,995	6.9	1,167	2.0	25.0
1/4 摘果	640	3,366	5.9	1,086	1.8	23.8

注) ① 調査園: 吉井町、供試品種: 25年生富有、落葉率: 90%
 ② 摘果処理: 平成3年10月9日、摘果数には台風による落果 (25%程度) を含む

[その他]

研究課題名: 台風による早期落葉がかき樹に及ぼす影響と翌年の結実確保

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度 (平成3~4年)

研究担当者: 林 公彦、姫野周二、吉永文浩

発表論文等: 平成3~4年度果園芸研究所果樹部落葉果樹研究室成績書